

2024年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2024年8月7日

上場会社名 東和ハイシステム株式会社 上場取引所 東
コード番号 4172 URL <https://www.towa-hi-sys.co.jp/>
代表者 (役職名) 取締役社長執行役員 (氏名) 飯塚 正也
問合せ先責任者 (役職名) 経理部部长 (氏名) 児玉 祐輔 (TEL) 086-243-3003
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期第3四半期の業績(2023年10月1日~2024年6月30日)

(1) 経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第3四半期	1,585	△1.8	345	30.3	486	31.2	330	31.7
2023年9月期第3四半期	1,614	△4.4	265	△24.9	371	△2.6	251	△1.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	売上高 営業利益率	売上高 経常利益率	売上高 四半期純利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年9月期第3四半期	148.45	—	21.8	30.7	20.9
2023年9月期第3四半期	112.70	—	16.4	23.0	15.6

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年9月期第3四半期	4,261	3,895	91.4	1,748.42
2023年9月期	4,061	3,733	91.9	1,675.89

(3) 経営指標

	株価収益率 (四半期累積PER)	株価純資産倍率 (PBR)	自己資本利益率 (四半期累積ROE)
	倍	倍	%
2024年9月期第3四半期	11.67	1.00	8.67
2023年9月期第3四半期	16.11	1.08	6.86

(参考) 2024年6月28日 株価終値 1,733円 2023年6月30日 株価終値 1,816円

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2023年9月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 50.00	円 銭 50.00	百万円 111	% 43.1	% 3.0
2024年9月期	—	30.00	—	—	—	—	—	—
2024年9月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00	—	45.6	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年9月期の業績予想(2023年10月1日~2024年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,302	12.8	368	59.5	418	8.6	293	13.4	131.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年9月期3Q	2,228,000株	2023年9月期	2,228,000株
2024年9月期3Q	49株	2023年9月期	49株
2024年9月期3Q	2,227,951株	2023年9月期3Q	2,227,973株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 2024年9月期第2四半期決算短信では、補助金の終了によって、前期までのオンライン資格確認等システム導入に向けた特需がなくなったことから、例外的に業績予想と比較をしておりましたが、第3四半期では業績予想の開示をしていない為、前期比と比較しております。

※ 経営指標の計算方法については以下の通りです。
 四半期累積PERは株価終値を1株当たり四半期純利益で割って計算しております。
 PBRは株価終値を1株当たり純資産で割って計算しております。
 四半期累積ROEは四半期純利益を期中平均の純資産で割って計算しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、コロナ禍からの社会・経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復を続けているものの、長引くウクライナ情勢・中東情勢や円安の進行による物価上昇、金融市場の変動等の影響により、依然として先行き不透明な状況が続いています。

そのような中、歯科業界では、昨年6月に厚生労働省が発表した「医療DXの推進に関する工程表」を踏まえ、過去に類を見ない大規模な「令和6年度 診療報酬改定」が行われました。この改定により、歯科業界は大きな変革期を迎えており、歯科医院の経営をこれまでの治療主体から医療DXを取り入れた予防歯科・訪問歯科主体へと進化・変革していくことが重要となっております。

そこで当社は、全国の先生方へ「令和6年度 診療報酬改定」説明会をアンコール編も含めて全7回実施したところ、「ものすごく困っていた、本当にありがとう」「先の展望が聞けて、今後どう取り組むべきか見えてきた」などの凄まじい大きな反響があり、この説明会を通じて、歯科医院を医療DXの観点から支援するために、オンライン資格確認等システムの利用拡大へ助成金を活用して訪問診療へ対応したソフトやマイナ保険証の利用状況・歯周病のメンテナンス状況・歯科ベースアップ評価料に必要な算定状況が見える化したソフト「Clinicアシスト」を次々と開発して拡販、さらに主力商品であるAI・音声シリーズ第1弾「AI・音声電子カルテ統合システム (Hi Dental Spirit AI-Voice)」、第2弾「AI・音声歯周病検査システム (Perio chart Pro. Voice)」の拡販へ繋げることで、歯科医院の生産性向上や業務効率改善、大幅な時間短縮を可能とするだけでなく、新たな医院収入の柱の創設へも寄与して参りました。

このような取り組みの結果、売上こそ伸び悩んだものの、引き続き「AI・音声電子カルテ統合システム」および「AI・音声歯周病検査システム」の月額利用料による継続的売上が好調に推移すると共に助成金を活用して訪問診療へ対応したソフトや「Clinicアシスト」第1弾・2弾・3弾、これら歯科DX支援ソフトの売上が大きく寄与、その結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高1,585,787千円(前期比1.8%減、28,255千円減)、営業利益345,309千円(前期比30.3%増、80,250千円増)、経常利益486,814千円(前期比31.2%増、115,804千円増)、四半期純利益330,729千円(前期比31.7%増、79,646千円増)となり、前期比および計画比で大幅な増益となりました。

尚、引き続き、自己資本比率91.4%、売上高経常利益率30.7%、売上高純利益率20.9%と高水準を維持しており、6/30現在 PER 11.67倍、PBR 1.00倍、ROE 8.49%となっております。

(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は4,261,824千円となり、前事業年度末と比較して200,188千円増加いたしました。

a. 流動資産

流動資産は1,470,000千円となり、前事業年度末より835,597千円減少いたしました。主な内訳は、現金及び預金の減少520,998千円と、売掛金の減少15,788千円、商品の増加62,459千円、預け金の減少150,507千円、有価証券の減少200,800千円であります。

b. 固定資産

固定資産は2,791,823千円となり、前事業年度末より1,035,786千円増加いたしました。主な内訳は、ソフトウェアの減少34,555千円、有価証券の購入に伴う投資有価証券の増加1,079,530千円であります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は366,421千円となり、前事業年度末と比較して38,580千円増加いたしました。

a. 流動負債

流動負債は312,257千円となり、前事業年度末より33,453千円増加いたしました。主な内訳は、買掛金の減少25,270千円、未払金の減少34,809千円、未払法人税等の増加55,793千円、未払消費税等の増加29,141千円であります。

b. 固定負債

固定負債は54,163千円となり、前事業年度末に比べて大きな増減はありませんでした。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は3,895,402千円となり、前事業年度末と比較して161,608千円増加いたしました。配当金の支払いが178,236千円生じた一方、四半期純利益を330,729千円計上したことにより利益剰余金が152,493千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の業績予想について、2023年11月13日に公表した「2023年9月期決算短信[日本基準] (非連結)」に変更はありません。

令和6年5月23日に開催された世界経済フォーラムでは「口腔保健への投資に関する世界的なコミットメント」と題する白書が発表され、共同で執筆したアメリカ歯科医師会等によると、歯周病と全身疾患との関係などを例に口腔衛生の重要性を強調する内容となっています。特筆すべきは、若年層で28%が口腔疾患によって仕事の能力に影響すると答えており、歯周病治療・予防による口腔衛生の改善こそが糖尿病・認知症・心疾患・呼吸器疾患等の改善にも繋がるということです。

したがって、全国10万人を超える歯科医師の中で歯周病専門医は、僅か1,177人 1.2%程度に留まるものの、今後は歯の形態の回復を主体とした「治療中心型」歯科治療から、患者個々の状態に応じた口腔機能の維持・回復をめざす「治療・管理・連携型」歯科治療の必要性が増すと想定されます。つまり、「令和6年度診療報酬改定」を踏まえ、医療DXを取り入れた歯周病予防・訪問診療の重要性が、ますます高まってくると考えています。

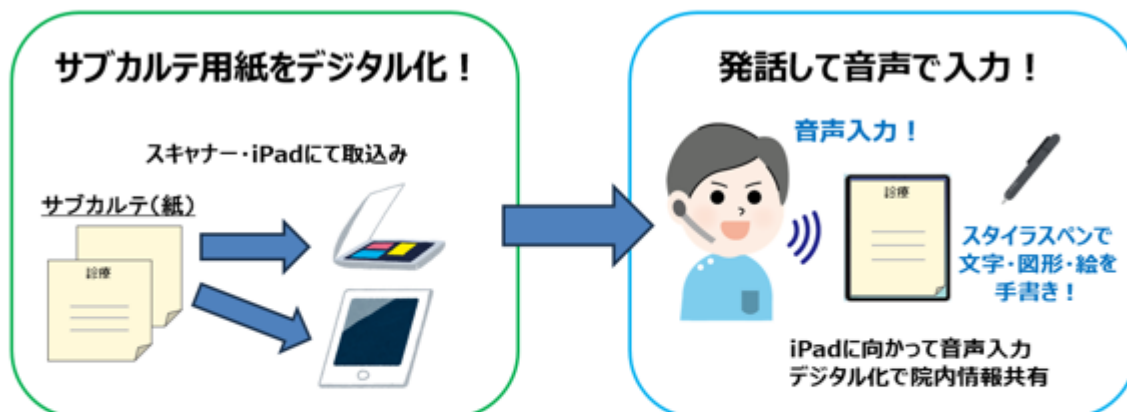
そこでAI・音声シリーズ第2弾「AI・音声歯周病検査システム (Perio chart Pro. Voice)」のさらなる拡販に注力することで、保険診療・自由診療に係る検査と記録を歯科医師・衛生士1人で完結するだけでなく、短縮された時間を利用して患者さまとのコミュニケーションやカウンセリングの時間に充てることで、患者さまの満足度や歯周病予防への意識を高め、定期メンテナンス促進へ繋げることができます。また、来院できない患者さまの訪問診療ニーズにも対応でき、検査結果からその場で指導箋文書も作成できます。さらに7月29日バージョンアップにより視診もリリースされたことから、歯科医院の全ての運営において、生産性向上・業務効率改善・大幅な時間短縮が可能となり、歯科医院の経営変革へさらに貢献して参ります。

そして、まもなくAI・音声シリーズ第3弾「AI・音声サブカルテシステム (Sub Karte-Voice)」をリリース致します。多くの歯科医師が熱望するサブカルテのデジタル化へ向け、歯科医院が使用している独自フォーマットのサブカルテをiPadアプリにデジタルデータとして取り込み、そこに日立のAI音声認識技術と「Recware」の音声テキスト化機能を連携・融合させることで、歯科医院で共有する患者さまのあらゆる情報を院内だけでなく訪問診療先でもAI・音声による入力と情報共有が可能となる業界初の画期的なシステムです。これにより、いつでも・どこでもリアルタイムで情報共有、患者さまに笑顔と安心が提供できます。また、歯科医師が訪問診療先の歯科衛生士を通じて、リアルタイムで撮影した口腔内ビデオを観察、次回の訪問診療に活用することで、歯周病を起因とした誤嚥性肺炎の予防にも繋がります。さらに、歯科医師が義歯などの歯科技工物を歯科技工所へ発注する際の「歯科技工指示書」をデジタル化することでAI・音声による入力・作成、さらに送信できる機能も付け加える予定です。

また、加速度的に進む医療DXについても、電子処方箋や単県公費・診察券のマイナンバーカード一体化を推進する補助金に対応したソフト、医療DX推進体制整備加算見直しに対応してマイナ保険証利用状況を見える化した「Clinicアシスト」、これら歯科DX支援ソフトの拡販に注力することで、引き続き、歯科医院のニーズに応じて参ります。

当社は、今、AI・音声シリーズ 第1弾・2弾・3弾を軸に新たな成長ステージへ突入したと考えております。そこで、更なる販売チャネルの拡大や営業基盤の拡充、AI・音声シリーズ第4弾・5弾の展開を通じて、中長期的には約3,000歯科医院へAI・音声シリーズを拡販することで、売上高35億円 経常利益10億円 売上高経常利益率28.5% 純利益7億円 売上高純利益率20.0%の達成を目指します。併せて、株主還元策として現在の配当性向45.6%を上回る50%以上の検討を含め、企業価値向上にも注力して参ります。是非ともご期待ください。

「AI・音声サブカルテシステム」(Sub Karte-Voice)



■サブカルテとは

患者に関するありとあらゆる情報を院内で共有するために、その日の処置内容や会話内容、患者の変化で気づいたことなど書き記すものです。多くの歯科医院は「紙」で管理しており、特に決まったフォーマットはなく、歯科医院ごとに様式は異なり、書き方に制限はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,402,910	881,912
売掛金	230,132	214,344
有価証券	200,800	—
商品	169,732	232,191
前払費用	31,752	20,259
未収入金	4,151	5,659
預け金	266,118	115,610
その他	—	23
流動資産合計	2,305,597	1,470,000
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	322,586	309,602
構築物（純額）	2,148	2,011
車両運搬具（純額）	9,798	7,177
工具、器具及び備品（純額）	30,367	29,254
土地	349,929	349,929
有形固定資産合計	714,830	697,976
無形固定資産		
ソフトウェア	172,806	138,250
ソフトウェア仮勘定	80,069	80,069
その他	2,017	1,938
無形固定資産合計	254,893	220,258
投資その他の資産		
投資有価証券	710,600	1,790,130
敷金及び保証金	35,358	35,227
繰延税金資産	39,138	47,106
その他	1,216	1,125
投資その他の資産合計	786,313	1,873,589
固定資産合計	1,756,037	2,791,823
資産合計	4,061,635	4,261,824

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,915	27,644
未払金	130,146	95,336
未払法人税等	54,745	110,539
未払消費税等	6,867	36,009
預り金	12,999	8,501
賞与引当金	11,249	1,050
その他	9,880	33,176
流動負債合計	278,804	312,257
固定負債		
退職給付引当金	49,036	54,163
固定負債合計	49,036	54,163
負債合計	327,841	366,421
純資産の部		
株主資本		
資本金	343,080	343,080
資本剰余金	297,480	297,480
利益剰余金	3,118,662	3,271,155
自己株式	△77	△77
株主資本合計	3,759,145	3,911,638
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△25,351	△16,235
評価・換算差額等合計	△25,351	△16,235
純資産合計	3,733,793	3,895,402
負債純資産合計	4,061,635	4,261,824

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
売上高	1,614,042	1,585,787
売上原価	444,724	376,055
売上総利益	1,169,318	1,209,732
販売費及び一般管理費	904,259	864,422
営業利益	265,058	345,309
営業外収益		
受取利息	8	3
有価証券利息	16,347	15,992
受取配当金	10,000	8,800
受取手数料	450	575
投資有価証券売却益	78,333	110,817
その他	811	5,315
営業外収益合計	105,951	141,504
経常利益	371,009	486,814
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税引前四半期純利益	371,009	486,814
法人税、住民税及び事業税	126,259	168,045
法人税等調整額	△6,332	△11,960
法人税等合計	119,926	156,084
四半期純利益	251,083	330,729

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社は、歯科医院向けシステム事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しています。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	48,303 千円	57,775 千円